

学習成果測定に係る取組 ～関西学院大学における IRコンソーシアム加盟の現状と課題～

関西学院大学
教務機構事務部 永井良二





本日のアジェンダ

1. 大学IRコンソーシアム加盟の経緯
2. 関西学院大学における調査の実施状況
3. 大学IRコンソーシアム学生調査の活用状況
4. 関西学院大学におけるIRの今後の展望



1. 大学IRコンソーシアム 加盟の経緯

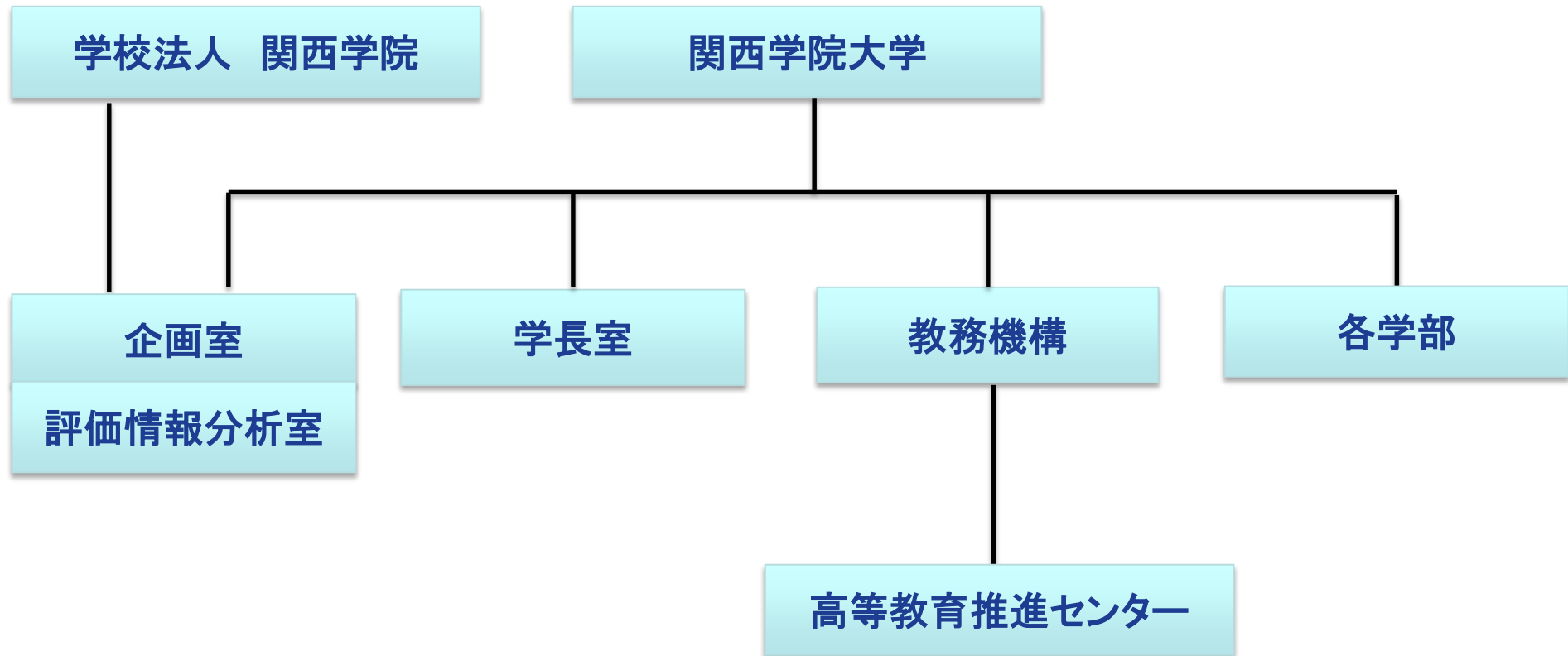


1-1. 大学IRコンソーシアム加盟の経緯

- 2010年度より、「相互評価に基づく学士課程教育質保証システムの創出一国公私立4大学IRネットワーク」へパイロット参加(2学部が学生調査のみ実施)。
- 2012年8月、大学IRコンソーシアム発足と同時に参加。
- 平成24年度 文部科学省 大学間連携共同教育推進事業「教学評価体制(IRネットワーク)による学士課程教育の質保証」に採択された。この事業においても、大学IRコンソーシアムの学生調査アンケートと教務データをあわせて解析を行い、直接・間接評価から、学士課程教育の質保証システムの創出と教学支援組織の育成を目指している。



1-2. IRの実施体制

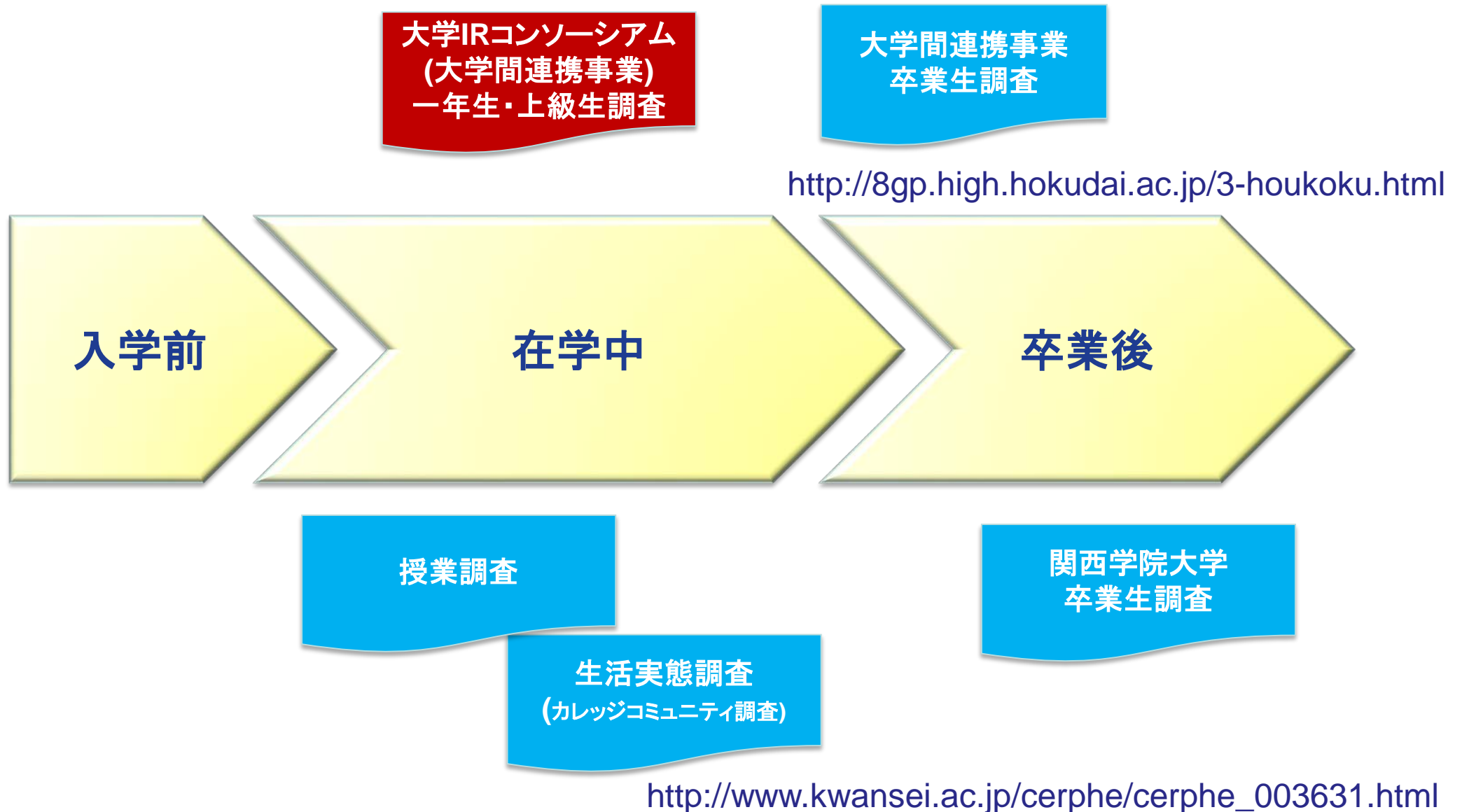




2. 関西学院大学における 調査の実施状況



2-1. 関西学院大学で実施している調査





2-2. IRコンソ学生調査(アンケート調査)

	一年生調査	上級生調査
対象学年	1年生	2～4年生
主要調査項目	<ul style="list-style-type: none">・学籍番号、プロフィール・授業経験・学習行動、受講態度・正課内外の活動時間・知識・能力の獲得状況・英語運用能力のレベル・大学生活、大学教育に対する満足感・将来イメージ・入学前の学習経験	<ul style="list-style-type: none">・学籍番号、プロフィール・授業経験・学習行動、受講態度・正課内外の活動時間・知識・能力の獲得状況・英語運用能力のレベル・大学生活、大学教育に対する満足感・将来イメージ・在学中に経験したいこと
回答所要時間(目安)	10～15分	10～15分

実施形態は、各大学に任されているが、本学では、マークシートを用いて、原則授業時間中に実施。ただし、回答に30分以上かかるケースもあり、授業中に配布し、事務室に提出する形態をとっている学部もある。



2-3. IRコンソ学生調査(教務データ収集)

	一年生調査	上級生調査
対象学年	1年生	2～4年生
収集項目	<ul style="list-style-type: none">・属性情報 (学籍番号・性別・生年月・出身地)・入学情報 (入学年・入試区分・学科系統)・卒業情報 (高校卒業年)・英語履修情報・英語成績情報・GPA情報 (累積評価値)・取得単位数 (累積単位数)・英語能力 (TOEIC公開テスト換算)	
	大学基本情報	
収集項目	教室数、図書館に関する情報、学生数、教職員に関する情報、入学者・編入者数、留年・休学・退学者数、卒業生数、卒業生の進路、学部設置分野、学部分野・学年ごとのGPA平均	

詳細は、大学IRコンソーシアム (<http://irnw.jp/>)のホームページをご覧ください。



2-4.学部・学年の参加状況

	2010年	2011年		2012年		2013年	
	一年生	一年生	上級生	一年生	上級生	一年生	上級生
神学部		○		○	2年生	○	3年生
文学部						○	3年生
社会学部				○		○	3年生
法学部		○		○	2年生	○	3年生
経済学部	○	○	2年生	○	2,3年生	○	2~4年生
商学部	○	○	2年生	○	2,3年生	○	3,4年生
理工学部				○	2,3年生	○	2~4年生
総合政策学部				○	2,3年生	○	2~4年生
人間福祉学部						○	3年生
教育学部						○	4年生
国際学部						○	3年生



2-5. 実施状況(2010～2011年度)

	2010年度 (パイロット参加)	2011年度
実施学部	経済学部・商学部	神学部・法学部 経済学部・商学部
一年生・調査対象者数	1,268件	1,995名
一年生・回収数	1,044件	1,483件
一年生・回収率	82.3%	74.3%
コンソ全回収数に占める割合		27.6%(5,379件)
上級生・調査対象者数	—	1,265名
上級生・回収数	—	811件
上級生・回収率	—	64.1%
コンソ全回収数に占める割合	—	19.4% (4,170件)



2-6. 実施状況(2012～2013年度)

全11学部
が参加

	2012年度	2013年度
実施学部	神学部・社会学部・ 法学部・経済学部・ 商学部・理工学部・ 総合政策学部	神学部・文学部・社会学部・ 法学部・経済学部・ 商学部・理工学部・ 総合政策学部・人間福祉学部・ 教育学部・国際学部
一年生・調査対象者数	3,922名	5,442名
一年生・回収数	2,923件	3,470件
一年生・回収率	74.5%	63.8%
コンソ全回収数に占める割合	29.0% (10,087件)	22.3% (15,558件)
上級生・調査対象者数	4,620名	10,150名
上級生・回収数	2,620件	5,431件
上級生・回収率	56.7%	53.5%
コンソ全回収数に占める割合	28.2% (9,291件)	36.1% (15,038件)



3. 大学IRコンソーシアム 学生調査の活用状況



3-1.調査実施の流れ

(1) 調査票作成(7~9月)

独自でアンケート票を作成しているため、調査票の校正等を実施

(2) 調査票の配布・改修(10~11月)

ゼミ等で調査票の配布・改修を実施。作業は学部事務室に依頼。

(3) 学部毎の結果集計表の作成(12~翌3月)

11月にマークシート回収、12月にデータ化が完了。

データをもとに、学部毎の集計表などの作成作業を実施。

(4) IRiSへの登録(翌3~翌5月)

成績データや大学基礎情報などの収集を行い、IRiSへのデータ登録作業を実施。

(5) IRiSを用いたベンチマーク比較(翌7月~)

IRiSへのデータ登録・分析が完了すれば、他大学との相互比較などを実施。状況を大学執行部や学部へフィードバック。



3-2. 調査の活用状況 (これまで...)

- (1) 集計結果データ(Excel/PDF)を配布。
学部毎に集計・比較したグラフ・表を配布。
他大学の合計数と本学の結果を比較したグラフ・表を配布。
☞ 渡したときは、見てもらえるかな...
- (2) IRiSのアカウント発行。
各学部の事務長、および担当者へ発行。
☞ 大学全体の集計値。学部にとって、これだけでは無意味。
勝手に見てください、では担当部署として無責任。
- (3) 各学部の担当者向けに、データ活用の講習会を実施。
事務長、教務担当者を集めて、2014年6月に講習会を実施。
☞ 全学部、教務機構、学長室から20名の職員が参加。
「やらされる」調査から「使う」ための調査へ。



3-3. 調査の活用状況 (次のステップへ 1)

- 各学部執行部や大学執行部と分析報告会を行い、学部毎、大学における課題の抽出を実施したい。
- IRiSでの集計について、(学部が了承すれば、)学部(学問分野)毎の他大学比較を行いたい。
- GPAって意味はあるのか？
もしくは、GPAの代替指標となりうる評価指標はあるのか？
- KPIとなる指標を見いだしたい。



3-3. 調査の活用状況 (次のステップへ 2)

- 大学IRコンソーシアムの調査項目として、欠けているものを補いたい。
 - ☞ 出口(就職・進学など)と結びつけた分析を行うべきでは。
- 本学独自の調査項目を増やしたい。
大学IRコンソーシアムの学生調査の実施により、パネル調査が定着しつつある。
- 他の実施調査との相互参照を模索中...
大学連携共同教育推進事業による卒業生調査
カレッジ・コミュニティ調査
卒業生調査
授業調査 など

重複する調査
の整理をする
必要がある。



4. 関西学院大学における IRの今後の展望と課題



4. 本学における今後の展望と課題

- 職員として「なぜ？」と疑問をもつセンス・能力をいかに磨くか（格好よくいえば、Research Questionを立てられる能力）？
- 学内におけるコミュニケーション能力
- 仕事を属人化させない

- 卒業生に対し、在学時の学籍番号とリンクさせた調査を実施したい。が、学籍データはいつまで遡って存在するのだろうか...

- IRとは「自大学に関する定量的データを収集・分析・可視化してマネジメントに活用する組織的機能」であり、IRの目的は「定量的データを活用したマネジメントの推進」（本学企画室小野の個人的定義）。
- データ・エビデンスに基づく施策立案の文化を根付かせるためには？



最後に、関西学院大学へのお誘い

第6回 EMIR勉強会

主催：山形大学・共催：関西学院大学

2014年9月19日～20日

関西学院大学 西宮上ヶ原キャンパス

第2回 GO GLOBAL JAPAN EXPO

(日本最大のグローバル大学博覧会)

主催：文部科学省ほか

2014年12月21日

関西学院大学 西宮上ヶ原キャンパス



ご清聴ありがとうございました。

関西学院大学 教務機構事務部 永井良二
(ryoji@kwansei.ac.jp)